



辺野古・大浦湾の埋立計画（沖縄防衛局埋立申請書より）——埋立区域、——施行区域



大浦湾のアオサンゴとイソバナモドキ（写真：牧志治）

辺野古の海に米軍基地はいらない

ラムネットJ共同代表 花輪伸一

辺野古・大浦湾の自然

沖縄県名護市の太平洋側の海岸線は、ふたつの漁港、キャンプ・シュワブの一部と県道の護岸以外は自然海岸で、砂浜、岩場、島や岩礁、干潟、マングローブ、河口域など多様性に富んだ自然の海辺が続いています。沖にはリーフ（サンゴ礁）が連なり、辺野古や嘉陽にはイノー（礁池という浅い海）が広がっています。

イノーにはリュウキュウアマモ、リュウキュウスガモなどの海藻藻場があり、日本では最も絶滅のおそれのある哺乳類のジュゴンの採食場所になっています。沖縄島では辺野古の藻場が最大の面積で、ジュゴンにとっては一番大切な場所です。

大浦湾の最深部は65mもありますが、浅場には巨大で珍しいアオサンゴ群集、ハマサンゴ群集があり、いろいろな種類のサンゴがみられます。また、大きなイソギンチャクがあるところでは6種ものクマノミ類が記録されています。岩礁や島では、エリグロアジサシ、ベニアジサシが繁殖しています。砂浜では、ウミガメ類が上陸、産卵しているところがあります。

大浦湾に流入する大浦川とその河口域は環境省の「ラムサール条約湿地潜在候補地リスト」に記載され、久志、辺野古、キャンプ・シュワブの沿岸は沖縄県の「自然環境の保全に関する指

針」によれば、評価ランク1の「自然環境の厳正な保護を図る区域」とされています。

米軍基地計画と環境アセス、埋立申請

このように自然環境に恵まれ、生物多様性の宝庫である辺野古・大浦湾では、米軍基地の建設計画があります。宜野湾市の普天間飛行場の移設計画として、1997年に海上ヘリ基地（90ha）、2002年に軍民共用空港（184ha）が計画されました。しかし、これらは住民の反対運動によって実現不可能となり、新たに2006年のキャンプ・シュワブ沿岸案（160ha）が採用され、2013年1月に環境アセス手続きが終了しています。

この辺野古アセスは、アセス前のボーリング調査準備、水中ビデオ、パッシブソナーなどの設置により、辺野古海域の海底環境やジュゴンに影響与えてからアセス調査が行われるなど非科学的なものでした。また、住民が意見を述べる場のない事業計画の後出しが多く、非民主的なものであったのです。オスプレイの配備は、評価書段階まで隠され、配備後は約束違反の飛行が繰り返されるなど、アセス自体の意義が疑われるものになっています。

また、沖縄県知事の409件におよ



建設反対の座り込みが続く辺野古のテント

ぶ意見や専門家、住民等の意見に対しては、必要かつ十分な回答がなされず、形骸化した回答や趣旨とずれたものが多く、これでは知事意見にあるように「自然環境と生活環境の保全は不可能」です。

現在は、このアセス書を添付した「公有水面埋立承認申請書」が、沖縄防衛局から沖縄県知事に提出され、県による審査が進められているところです。住民、市民等の利害関係者の意見は、7月半ばに締め切られ、ラムサール・ネットワーク日本からも埋め立て反対の意見書を提出しています。

今後に向けて

この埋立申請に対しては、地元の名護市長は名護市議会の議決を得て反対意見を出すことになるでしょう。県知事は、今年の12月頃に埋め立ての適否を判断すると見られています。辺野古・大浦湾の埋め立てと米軍基地建設に反対する住民、市民、平和団体、環境団体は、当面は県知事に埋め立てを承認しないように強く働きかけていくことになります。

一方、日本に存在する米軍基地の74%が沖縄に集中し、その一環として辺野古に新基地が造られ、またも住民の安全、安心な生活が脅かされようとしていること、また、見返りとして巨額の振興資金が投入され、大部分がハコモノ造りの大規模公共事業に当てられ、沖縄の自然が破壊されていることを忘れてはなりません。日米安保と地位協定を根本的に見直さなければ、解決しない問題です。

清流の里を脅かす 石木ダム

こぼるとかい 石丸 勇
川原人会



九州のマッターホルン虚空蔵山

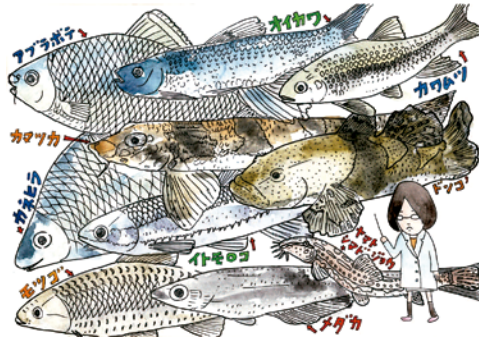
問題だらけの石木ダム建設計画

石木ダムは、長崎県と佐世保市が川棚川の支流、石木川中流域の川原地区に計画した佐世保市の水源確保が主目的の多目的ダムです。計画ではダムの堤高55・4m、長さ234m、総貯水量548万t、総事業費285億円で、補助率アップのために治水等が付け加えられたといいます。1972年、県が予備調査を開始。75年に国が事業採択。82年、土地収用法に基づき県が機動隊を導入し強制測量調査をしたために、反対同盟や支援者等による阻止行動が行われました。09年11月、県と佐世保市が強制収用を可能にする事業認定を国に申請しました。13年3月に国交省九州地方整備局は事業認定手続きを再開し、公聴会が開催されました。現在、事業認定



手続きの動向を待っている段階です。

13年3月に実施された佐世保市の水道事業再評価は、「石木ダムありき」で数字合わせによるごまかしの水需要予測を行いました。実際、佐世保市の水は足りています。過去の渇水騒ぎも、石木ダム建設推進のために漏水対策やダム以外の水源対策を怠った結果だったことが、最近分かってきました。



石木川に生息する魚たち（石木ダム反対パンフから）

県は石木ダムで水害を防ぐと宣伝しますが、石木ダムの流域面積は川棚川全体の9分の1しかなく、治水に役立ちません。川棚川下流域の水害は、内水被害によるものだからです。また、環境アセスは、閉鎖性海域の大村湾への影響に関し調査をしていないという、まったく杜撰なものです。

里山の豊かな自然を守るために

建設予定地は、大村湾岸から5km弱の地、車で約5分のところ。どこにでもありそうな里山を抱く、自然豊かな清流の里です。ホタルやカワセミ、カスミサンショウウオなども生息しています。九州のマッターホルンと呼ばれる虚空蔵山を源とする石木川の上流には、日本の棚田百選の地「日向の棚田」もあります。

水没予定地区に暮らす13戸の地権者は、計画が持ち上がった以来半世紀の間、ダム建設に一貫して絶対反対の姿勢を貫いています。ふるさとを守る闘いは、必然的に里山の自然を守り後世へ伝えていく運動と結びついて、そこで暮らす人々を生き生きと輝かせています。「小さなダムの大きな闘い」として、全国に発信された故山下弘文さんも認めた原点です。湿地のグリーンウェイブに参加している「川原ほたる祭り」は、第26回の今年も盛会でした。この時季は、幻想的なホタルの乱舞を求めて多くの人が訪れます。



今年の川原ほたる祭り（5月25日）

「田んぼの10年プロジェクト」に参加して

人と自然へのやさしさをもとめて

（有）伊豆沼農産
佐藤耕城

宮城の県北に位置する登米市迫町には新田という地区があります。ラムサール条約登録湿地の伊豆沼があり、夏は蓮が大輪の花を咲かせ、冬は白鳥や雁が群れをなして飛び交う光景が広がります。当社は、この豊かな自然の中で「農業を食業に変える」という経営理念のもと創業しました。農村の「場」と、農村で生産した「もの」と、農村で暮らす人たちの「こころ」を組み合わせた、新しい農村産業の実現を目指している会社です。また、行政・企業・環境保護団体・地域住民団体等からなる「伊豆沼から全国へ超元気を発信する協議会」をつくり、地域の農業や食文化を守り育てながら、環境保全と産業振興が共存し、人と自然が一体となる地域を目指して日々活動しています。

開催し、生物多様性に基づいた農業と環境の魅力について理解を深めてもらう取り組みを行っています。

田んぼの生物多様性向上10年プロジェクトに参加してからは、水田の生物多様性向上に関する広報、教育、普及啓発を推進すべく、新たな体験プログラムの計画立案、情報発信に注力しています。今後このような取り組みを続け、地元住民の方々には自分たちが住む地域の魅力や都市部で果たしている役割を、都市部に住む方々には自分たちの食生活が、農村や環境、そこに住む生き物たちによって支えられていることへの気づきを得る機会を創り出していきます。今後はプロジェクトに参加している皆さんとよりいっそう情報交換や連携を深め、環境負荷の少ない持続可能な社会の構築を目指していきます。



ふゆみずたんぼの生き物調査



ふゆみずたんぼの田植え（新田小学校総合学習）

荒尾干潟（熊本県）

日本野鳥の会熊本県支部 安尾征三郎

荒尾干潟は熊本県、福岡県、佐賀県、長崎県に囲まれた有明海の中央部東側に位置し、南北9・1km、東西最大幅3・2km、干潟面積約1656haあり、単一の干潟としては国内有数の広さを誇る干潟です。有明海でも干潟が減少していく中で、荒尾干潟は1978年以降減少していません。

荒尾干潟に流れ込む河川はなく、有明海湾奥部の干潟と違い、荒尾干潟は泥砂干潟です。大潮の干潮時には干潟の道をアサリ貝採りの漁師たちが長い列をなして漁場へ向かいます。中には自転車に乗った人たちが、バイクも走り、テラーで荷を運ぶ人がいて、この光景を初めて見た人はびっくりします。

冬期には夕陽に映える干潟の海苔畑のシルエットがきれいでカメラ



テラーで荒尾干潟に行く漁師たち



浜辺で休憩するシギ・チドリ類

マンをひきつけています。

荒尾海岸は後背地が市街地です。満潮時のシギ・チドリ類の休息場所は波打ち際となります。堤防上から30mの距離で鳥たちを観察できるのが荒尾海岸の特徴です。

野鳥の会では、1980年代から1月、4月、8月に探鳥会を実施し、120種を超える鳥類を観察しております。近年、クロツラヘラサギが飛来するようになり、今冬は8羽を観察しました。ズグロカモメの飛来数も528羽を数えています。環境省モニタリングサイト1000シギ・チドリ類調査の結果を行政や市民にも知らせております。

2006年から、エコパートナーあお市民会議主催の環境フェスタでは、「荒尾干潟の鳥たち」の写真展示を行い、また、沿岸地域住民と荒尾干潟探鳥会を市民参加型で行っています。

今年の6月30日には、荒尾干潟ラムサール条約湿地登録1周年を迎えた「荒尾干潟の日2013」記念イベントで、東アジア・オーストラリア地域フライングエイ・パートナーシップ認定授与式がありました。「世界の宝」となった荒尾干潟に市民の関心が高まっています。

福岡市の人工島の野鳥公園は、「公共事業の見直し」と「湿地の再生」です

ウエットランドフォーラム 松本 悟

福岡市の人工島（アイランドシティ）の野鳥公園について、現在、市民参加のワークショップが進行中なので、その経緯や現況等を紹介させていただきます。

1994年着工の人工島埋め立て事業は、「環境破壊」と「財政破壊」の2点で強く市民から批判を受けてきました。2004年の終了予定でしたが、現在も工事中で、収支計画や全体計画も5度の大きな変更を強いられてきました。

野鳥公園は2009年の見直しで、8.3haから12haに拡大されました。

ウエットランドフォーラムは台湾や韓国の友人・組織に働きかけ、多くの声を集めて市議会に湿地の保全の請願を提出しましたが、結果は議論されずに廃案でした。しかしそのことが、米国のクロツラヘラサギの保護グループ「SAVE International」を動かし、2010年に福岡

大学のまちづくり研究室と共同でシンポジウムを開催し、2011年には福岡市に具体的な野鳥公園の提案を行いました。それらを受けて、福岡市は担当部局を、港湾局から環境局に移し、野鳥公園のあり方を検討する市民参加のワークショップ（ラウンジカフェ形式：RC）を2012年10月から開始しました。

これまで5回のRCが開催されました。しかしまったく議論が深まらず、まだ何もイメージや方向性は見えていません。我々は事務局へ、情報（他の野鳥公園の事例、周辺の野鳥の飛来状況、この地域の環境特性、国設鳥獣保護区のこと、エコパークゾーン計画など）の共有、さらにSave Internationalや福岡大学研究室のプランなどの公開を執拗に求めてきましたが、一切応えず、不毛な時間を費やしています。

福岡市の事務局は「市民の声で作ります」ということを強調していましたが、5回目のRCで専門家委員会を立ち上げることをいきなり発表しました。3回目のゾーニングがうまくいかなかったり、4回目のテーマが、事前、直前、当日、すべ



4回目で示されたプラン図（2006年検討委員会案のバクリ）に参加者が書き込みをしました

て違ったり、4回目で示された事務局の図面がバクリ（これまでの参加者の意見をまとめた図だと説明されたが、2006年に専門家委員会が作った基本構想図の描き直しだった）であつたりと……事務局が混乱して、専門家に委ねたということではないかと思っています。

当面、専門家委員会がどのようなメンバーで、どのような役割なのか、RCとの関係はどうなるのかなどを注視して、今後の動きを考えなければなりません。ラムネットJの皆さまからも「野鳥公園のあり方」について多くの意見を寄せて欲しいと思います。「福岡市 野鳥公園ラウンジカフェ」で検索すれば、これまでの様子を見ることができます。

ラムサール条約の「湿地再生の原則」とはほど遠いですが、今、野鳥のための場所が狭いながらも作られようとしています。人工島の野鳥公園は、「公共事業の見直し」であり、「湿地の再生」です。ぜひ、皆様の知見をお寄せください。



野鳥公園現地見学の様子

2012年度 会計収支計算書 (単位:円)

経常収入の部	
会費収入	838,000
事業収入	2,258,653
補助金等収入	5,841,541
寄付金収入	863,206
その他の収入	
雑収入	183,340
利息収入	555
その他の事業会計からの繰入	0
経常収入合計	9,985,295
経常支出の部	
1 事業費	
調査研究事業費	3,549,666
保全・再生事業費	1,919,578
普及・啓発事業費	2,546,874
国際協力事業費	97,680
ネットワーク推進事業費	134,610
事業費計	8,248,408
2 管理費	
役員報酬	0
給料手当	0
什器備品費	7,108
旅費交通費	210,000
支払家賃	598,000
事務所費	93,805
業務委託費	120,000
消耗品費	0
通信運搬費	104,157
印刷費	1,220
会議費	8,100
支払手数料	19,850
租税公課	1,200
諸会費	10,000
雑費	0
管理費計	1,173,440
経常支出合計	9,421,848
経常収支差額	563,447
当期収支差額	563,447
前期繰越収支差額	1,314,079
次期繰越収支差額	1,877,526

※2012年4月1日から2013年3月31日まで

2012年度の事業費の主な内容

- 調査研究事業費
 - ・ヘラシギ調査活動 (ミャンマーなど)
- 保全・再生事業
 - ・水田優良事例報告集作成
- 普及・啓発事業費
 - ・湿地のグリーウェイブ2013
- 国際協力事業費
 - ・ラムサールCOP11 関連
- ネットワーク推進事業費
 - ・ラムネットJニュースレター発行

話を合われました。



●第5回人と野生動物植物の共生を考えるつどい 日時…8月24日(土) 13時30分 場所…宮城県登米市南方農村環境改善センター 主催…登米市環境市民会議／登米市／ラムネットJ 内容…第1部は水野玲子さん、稲葉光國さんの基調講演、第2部は「田んぼの生物多様性向上10年プロジェクト交流会in登米」として、プロジェクト登録団体からの活動発表などが行われます。詳細はラムネットJのウェブサイトをご覧ください。

ラムネットJでは2013年の通常総会を6月29日に福井県敦賀市のきらめきみなと館で開催し、2012年度の事業報告と収支決算、2013年度の事業計画と収支予算、定款変更(事務所の移転)が承認されました。会計収支は左表の通りです。その他の総会議事については、議案書をウェブサイトに掲載していますのでご参照ください。

ラムサール・ネットワーク日本 2013年 総会報告

Information

●「湿地の賢明な利用」シンポジウムを開催

ラムネットJでは日本自然保護協会との共催で、シンポジウム「ラムサール条約湿地の賢明な利用を考える」を、6月29日に敦賀市のきらめきみなと館で開催しました。第1部では、環境省の中島慶二課長をはじめ、COP11で新たに条約湿地になった円山川下流域、渡良瀬遊水地、中池見湿地のNGOが、湿地の管理について現状や課題を発表。地域住民との協働で保全を図っていくことの重要性などが報告されました。第2部では、中池見湿地の北陸新幹線建設問題を中心としたディスカッションが行われ、利害関係者との協議を進め、建設ルート変更など影響軽減のための措置を求めていることが話合われました。

●里山と湿地を守るレンジャー奮闘記

日本野鳥の会レンジャーの大畑孝二さんの著書が発行になりました。ウトナイ湖、片野鴨池での活動や、矢並湿地が東海丘陵湧水湿地群としてラムサール条約に登録されるまでの経緯などが紹介されています。ご希望の方は豊田市自然観察の森(〒471-0001 豊田市東山町4-1206-1)まで500円分の切手を同封してお申し込みください。



ラムサール・ネットワーク日本 会員募集 !!

ラムサール・ネットワーク日本(ラムネットJ)の活動は、会員の皆様からの会費や、カンパ、助成金などでまかっています。ぜひ、ラムネットJのサポーター(一般賛助会員)になって会の活動を支援してください。もっと積極的に湿地保護にかかわりたい方は、会の運営や活動を担う一般正会員としての入会をお待ちしています。そのほか、団体や企業としての入会も可能です。詳しくは事務局までお問い合わせください。

会員の特典

機関誌「ラムネットJニュースレター」を送付するほか、会員限定のメーリングリストに参加できます。ラムネットJが主催する催しの参加費が割引になる場合もあります。

入会申込方法

●郵便振替 郵便振替用紙(払込取扱票)の通信欄に、ご希望の会員種別、お名前、住所、電話番号、Eメールアドレスをご記入の上、年会費をお振り込みください。一般銀行から振り込む場合は(払込取扱票への記入ができませんので)振り込み後に上記の申込事項をEメール、FAX、郵便等で右記の事務局までお知らせください。

●ウェブサイト 一般賛助会員、一般正会員はウェブサイトからオンラインでの入会も可能です。http://www.ramnet-j.org/joinにアクセスし、「入会申込フォーム」に記入して送信してください。年会費は郵便振替で送金いただくか、ペイパルを使ってオンラインで決済することも可能です(クレジットカードも使用できます)。

振込先

ゆうちょ銀行 振替口座 00140-0-765702 ラムサール・ネットワーク日本
(一般銀行から) ゆうちょ銀行 〇一九(ゼロイチキウ) 店
当座預金 0765702 ラムサール ネットワークニホン

会員種別と入会申込金(年会費)

会員種別	正会員		賛助会員	
	総会での議決権があります		総会での議決権がありません	
一般	1口	5,000円	1口	2,000円
団体	1口	10,000円	1口	10,000円
特別	50,000円以上		30,000円以上	
企業	-		1口	100,000円

年会費(入会金)

年会費は毎年4月から翌年3月までの1年分です。入会初年度は、年度途中の入会でも入会金として1年分の会費をいただきます。2~3月に入会の場合、初年度の年会費(入会金)は無料となり、4月からの次年度の年会費としていただきます。

事務局

NPO法人 ラムサール・ネットワーク日本
〒110-0016 東京都台東区台東1-12-11
青木ビル3F TEL/FAX 03-3834-6566
Eメール info@ramnet-j.org